

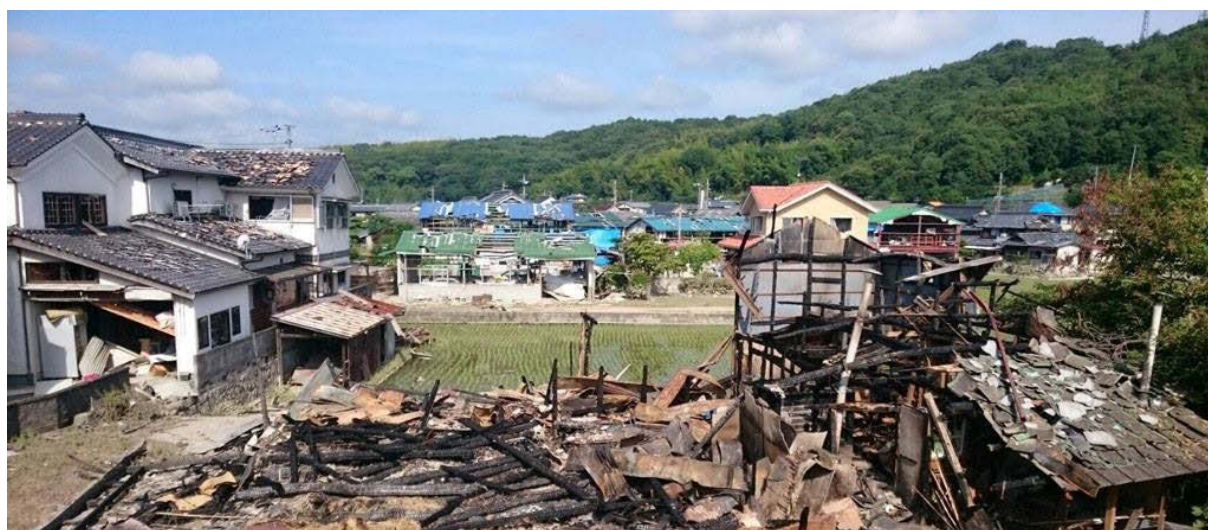
総社市の高校生ボランティア大活躍

総社市社会福祉協議会
災害ボランティアセンター



1. 被害の状況

総社市では、7月6日（金）から7日（土）にかけての大雨による浸水、また7月6日（金）にアルミ工場（総社市下原）で大規模な爆発事故が起きたことにより、住宅火災、ほぼ全住宅や付近のコンビニの窓ガラスが割れるなどの甚大な被害が発生しました。7月15日付の岡山県災害対策本部の発表によると、総社市での被害は死者4人、全壊7棟、半壊7棟、床上浸水576棟、床下浸水369棟に上りました。



2. 高校生の呼びかけと災害ボランティアセンターの設立

7月7日災害の日の午後4時、ある高校生から片岡市長へメールが入りました。「私たち高校生に何かできることはありませんか？配給の手伝いなどはできませんか？何かできるかもしれないのに家で待機しているのは辛いです。子どもだからできることは少ないかもしれないです。でも、ほんの少しでも出来ることはないですか？」。すると、片岡市長から「総社市役所へ手伝いに来てください」とメールの返信がありました。夕方約50名の高校生が集い、避難所の夕食の準備などを手伝いました。

そして、次の日に、ボランティア活動をやろうとの呼びかけを高校生同士がSNSを通じて拡散しました。多くの高校生が賛同し、午前6時には約500人の高校生が市役所前に集いました。総社市社会福祉協議会では、早急に災害ボランティアセンターの立上げを行いました。



3. 高校生ボランティア大活躍

総社市内の総社南高等学校と総社高等学校では、約5年前から岡山県内の全高校で実施している社会貢献活動（3年間で5日間の社会貢献活動）で、総社市社会福祉協議会と協働して福祉ボランティア活動に取り組んでいました。この活動により高校生の福祉意識や関心が高まっていました。そのような背景で、総社市で大きな災害が起こり、しかも高校が休校になったため、「ほっとけない」気持ちと高校生同士のツイッターでの呼びかけが起爆剤となり、多くの高校生が立ち上がりました。

災害発生後の初日の7月8日には507人、9日には771人、10日には294人、11日には172人と4日間の合計で1744人も高校生がボランティア活動に参加してくれました。



高校生には、①被害の激しかった現地での泥だしや家具や電気製品の搬出、②支援物資の受け渡し、③避難所の食事の配布や清掃などの活動を積極的に行ってもらいました。汗だく泥だらけになりながら若いエネルギーを爆発させて被災者のために大活躍してくれました。被災者の方からは、「若い高校生が来てくれて助かりました。元気をもらいました」と感謝されました。おかげで、総社市の復興支援の取り組みはすさまじい速さで進行し、復興の目途が立ってきました。





4. 被災した小学生・中学生の遊び相手や学習支援の活動 ～みんなのライオンカフェ～

避難所で暮らす小学生や中学生は、厳しい環境で生活しています。そこで、気持ちをリフレッシュするために高校生が遊び相手になり、学習支援を行うことにしました。名前は、「みんなのライオンカフェ」です。



この活動には、公益財団法人風に立つライオン基金からの支援を受けています。総社市内の1つの避難所で活動を始めました。曜日は、月曜日、水曜日、金曜日の週3日間です。時間は、午後3時から5時の2時間です。避難所の小学生・中学生が

三々五々集まり、まずは夏休みの宿題をやります。落ち着いた雰囲気の中で、高校生のアドバイスを受けながらどんどん進みます。約1時間の勉強の後は、高校生の考えた楽しいゲームです。初日は絵当てゲームでした。ピカチュウの似顔絵を書いて、何を書いたか当てます。大変盛り上がり、笑顔があふれました。



参加した小中学生の感想です。「勉強がたのしかった」「えをかくの楽しかった」「勉強の時はしっかり集中して頭に入りました。ゲームなどととても楽しかったです。また、きてほしいです」などの感想をいただきました。

避難所の子どもたちは、楽しくて癒されるひとときになったことでしょうか。これからも、このみんなのライオンカフェを通じて、避難所の子どもたちに心の癒しを届けます。



絵当てゲームで盛り上がっています！



第2回みんなのライオンカフェ

トランプも大いに盛り上がりました！



被災小中学生の学習支援

総社市社協、ルーム開設
高校、大学生が交代で指導



支援ルームを、西公民館(同市秦)に開設している。勉強や遊びを通じ、避難所生活の児童、生徒をサポートする。西公民館に避難している小1~中1計6人が対象。8月24日まで、毎週月、水、金曜の午後3時~5時の2時間、総社、総社南高校の生徒が交代で学習支援に当たる。県立大生もサポートに入る予定。

初日の25日は、総社高生3人が同館を訪問。夏休みの宿題の問題集を解く児童らに丁寧に指導した。中1男子(1)は「教えてもらいながらだと、すらすら問題が解け勉強に集中できた」と話していた。

学習支援ルームの名称は、公益財団法人・風に立つライオン基金の支援を受けたことから「みんなのライオンカフェ」と名付け、アマゾン・ジャパンがホワイトボードや教材などの学用品を提供した。(古川和宏)

高校生のサポートで宿題に取り組む小中学生

7月9日に集まった高校生ボランティア



風に立つライオン基金から贈られた文房具

